

9月号は『平川病院の合併症対応能力特集』です。

2026年

9月

みやま

第340号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

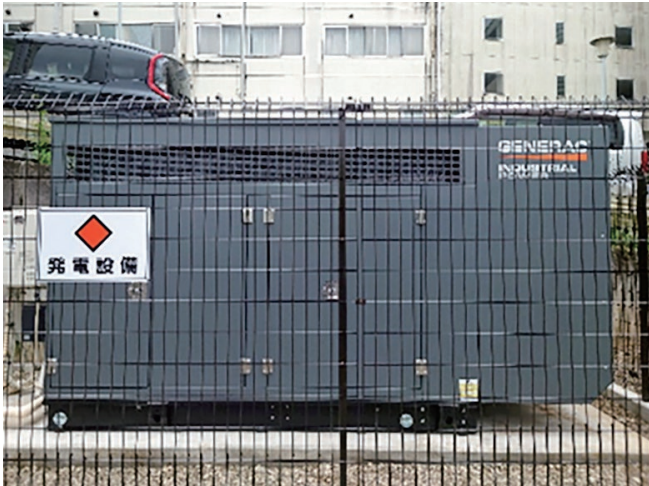
「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



発電機が設置されました

院長 平川 淳一

当院は、非常用発電機が弱く、僅かな時間しかもたないため、停電などの際はたいへん困っていました。さらに、最近は災害が日常茶飯事で、災害時の備えとしても発電機の整備は必要と考えていました。そのように思っていたところに、2、3年前の日本精神科病院協会の学術集会の企業展示ブースで、この機械に出会いました。八王子はプロパンガスが普及しているため、プロパンガスによる発電機は身近に感じました。出力は東館とAW棟の2棟をカバーできる程度ではありますが、3日間くらいは稼働ができるようです。欲しいなあと思っていましたところ、一昨年、日本DPATという地震や豪雨などの自然災害などの後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチームの研修を受け、登録されたことから、災害拠点精神科病院としての指定を受けることになりました。さらに、この災害拠点精神科病院への支援として、発電機の設置補助を受けることができるようになり、実現した経緯です。このような立派な発電機を装備したからには、災害時もしっかり精神科機能を発揮し、地域の皆様のお役に立てるように精進したいと思っています。よろしくお願いいたします。

【表紙】院長あいさつ 【P2】内科特集① 住み慣れた場所での生活を支えるために
【P3】内科特集② 様々な分野の医師紹介 【P4】内科特集③ 採血でわかる心臓の負担～BNP～
【P5】内科特集④ 内科病棟のリハビリテーション 【P6】内科特集⑤ 食べるをつなぐ摂食嚥下
リハビリテーション 【P7】内科特集⑥ 平川病院の内科訪問診療について
【P8】『ファッションセンターしまむら』がやってきます・編集後記

特集

内科

住み慣れた場所での生活を支えるために

内科病棟 看護師 清水 哲志

私たちの病棟では、患者さん一人ひとりの病状や生活背景を大切にしながら、治療だけでなく、退院後の生活を見据えた支援にも力を入れています。

入院生活を終えた後の行き先は、ご自宅だけではなくありません。ご本人やご家族の希望、身体状況、生活環境、介護力などを踏まえ、在宅復帰を目指す方、介護施設などへの退院を希望される方、そして人生の最期を穏やかに過ごすことを希望される方など、その選択はさまざまです。当院では、それぞれの思いに寄り添いながら、患者さんやご家族が安心して次の生活へ移行できるよう、多職種で連携しながら退院支援を行っています。

特に在宅復帰に向けては、病院での治療を終えることだけを目標とするのではなく、「退院してからどのように生活するのか」を入院中から一緒に考えていくことが大切です。自宅での生活に戻ることに喜びがある一方で、「自宅でうまく生活できるだろうか」「介護する家族の負担は大丈夫だろうか」など、患者さんやご家族がさまざまな不安を抱えることもあります。そこで内科では、ご本人やご家族が退院後の療養生活について理解を深め、少しでも安心して在宅生活を始められるよう、「在宅支援に向けた指導パンフレット」を作成しています。日々の生活の中で気をつけていただきたいことや、療養生活を送るうえで知っておいていただきたいことなどを分かりやすくまとめ、退院後の生活を具体的にイメー

ジしていただけるよう工夫しています。

また、当院では以前から、人生の最終段階をその人らしく過ごすための「看取り支援」に関するパンフレットを作成し、患者さんやご家族への支援に活用してきました。看取りの場面だけでなく、今回の在宅支援パンフレットを通して、退院後の暮らしそのものを支えることにも、より力を入れていきたいと考えています。

退院は、病院での治療の終わりであると同時に、その人にとって新たな生活の始まりでもあります。私たちは、患者さんがどこで過ごすことを選択されても、その思いを尊重し、その人らしい生活を安心して続けられるよう支援していきます。これからも患者さん・ご家族の声に耳を傾け、地域の医療・介護関係者とも連携しながら、入院中から退院後の暮らしまで切れ目のない支援を目指していきます。



特集

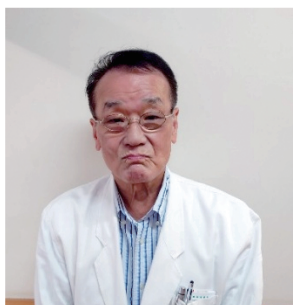
内科

平川病院では、幅広い専門分野の医師が活躍しています。ここにご紹介します。

※掲載している以外にも沢山の医師が勤務しています

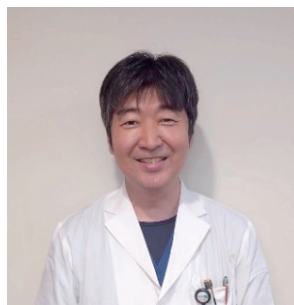


よろしく
お願いします



副院長
河合 伸

呼吸器内科、
感染症
内科外来も担当
しています



内科医長
土井 淳

訪問診療も担当
しています



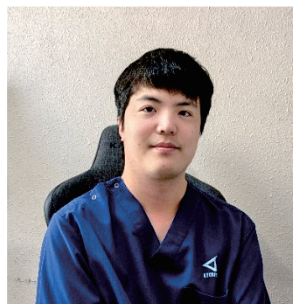
救急医療・集中医療
大竹 成明

東京医科大学八王
子医療センター
毎週木曜日



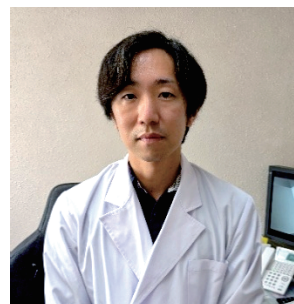
呼吸器内科
中嶋 啓

杏林大学医学部
付属病院
毎週金曜日



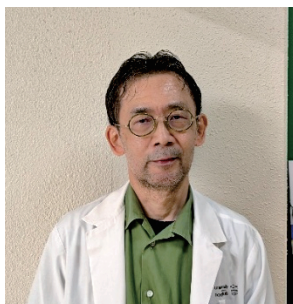
呼吸器内科
森川 諒一

杏林大学医学部
付属病院
毎週火曜日



循環器内科
福士 圭

杏林大学医学部
付属病院
毎週金曜日



皮膚科
太田 有史

東京慈恵会医科大
学皮膚科学講座
第2.4 日曜日



内科・リウマチ科
若林 孝幸

多摩平リウマチ
膠原病クリニック
院長
第2.4 水曜日



整形外科
林 光俊

平川病院顧問
毎週火曜日



整形外科
安部 学

目白第二病院
院長
毎週金曜日

特集

内科

採血でわかる心臓の負担～BNP～

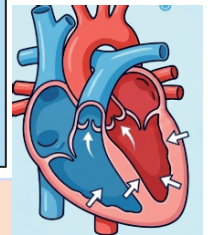
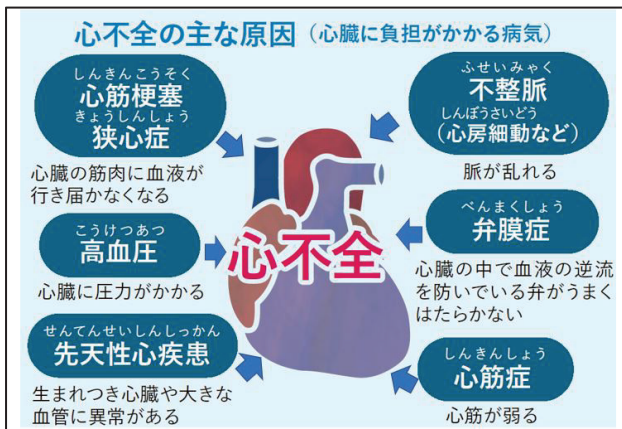


検査科 主任 臨床検査技師 齋藤 知香

こんにちは検査科です。今回は血液検査項目の中で心不全の診断や治療の目安となるバイオマーカー「脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）」について紹介します。

まず心不全とは

死亡原因としてよく目にする「心不全」は、病気の名前ではありません。心不全とは、心臓に何らかの異常があり、心臓のポンプ機能が低下して、全身の臓器が必要とする血液を十分に送り出せなくなった状態をいいます。



BNPとは

- ・最初に脳から発見されたホルモンであるため“脳性”とついています。主に心臓で生成され分泌されるホルモンです。
 - ・心臓に強い負荷がかかることによる壁の伸展や、過度な圧力がかかった時に、主に心室から分泌されます。
 - ・利尿作用、血管拡張などの生理活性を持ち心臓の負担を軽くする作用があります。
 - ・心臓への負荷が大きいほど数値も高くなります。心不全の診断・重症度・予後の評価・治療効果の確認のために測定されます。
- ※心不全以外でも、高血圧や心房細動などの不整脈、腎臓の機能低下でも軽度上昇します。

基準値は？

- ・検査基準は、18.4pg/mL以下とされています。35pg/mL以上100pg/mL未満であれば前心不全、または心不全の可能性があり、100pg/mL以上の場合には心不全の可能性が高く、心疾患のための精密検査を行ったほうがよいとされています。

BNPは心臓の状態を把握し、心不全の早期発見に重要な検査項目です。

特集

内科

内科病棟のリハビリテーション

リハビリテーション科 主任 理学療法士 奥出 聡

当院の内科病棟には、肺炎や心不全、脳血管疾患、廃用症候群など、幅広い内科系疾患の患者様が入院されています。慢性期や療養を目的とした入院が中心であり、患者様それぞれの体力や病状、ご本人・ご家族の希望に合わせたリハビリテーションを行っています。医師や病棟看護師とも情報を共有しながら、状態の変化に応じて柔軟に対応しています。

リハビリテーションでは、座る・立つ・歩くといった動作訓練やコミュニケーション訓練に加え、嚥下や食べる動作の改善、使いやすい食具の選定、食事を取りやすい環境づくりなど、食事に関わる支援にも力を入れています。さらに、歩行器や車椅子といった福祉用具の選定や生活環境の調整も行いながら、専門職がそれぞれの視点から具体的な支援を行っています。長期の療養生活で体力や筋力が低下しないよう、日常生活動作の維持・向上を目指した関わりを大切にしており、医師・看護師・管理栄養士・医療相談科のスタッフなど院内の多職種とも連携しながら取り組んでいます。

また、神経難病などにより在宅で介護を受けておられる方が、ご家族の休養（レスパイト）を目的に短期入院される際にも、入院中に体力や関節の動きが低下しないよう、状態に合わせたリハビリテーションを行っています。

このほか、終末期（ターミナル期）にある患者様に対しては、症状の緩和や楽な姿勢の保持、日常生活の質（QOL）を保つことを目的としたリハビリテーションのご依頼にも対応しています。痛みや息苦しさなどのつらさを少しでも和らげられるよう医師と連携しながら、機能の回復だけにとらわれず、ご本人・ご家族の思いを伺って関わることを大切にしています。

退院後は、ご家族への介助方法の指導や、ケアマネジャーを通じた介護サービスへの橋渡しを行うほか、入院中にリハビリを担当した患者様のもとへ、必要に応じて訪問リハビリでお伺いすることもあります（全ての方が対象ではありません）。

内科病棟のリハビリは、患者様お一人おひとりの体調や生活背景に合わせた関わりを大切に、スタッフ一同取り組んでいます。



特集

内科

食べるをつなぐ摂食嚥下リハビリテーション

リハビリテーション科 言語聴覚士 緒方 タ美子

内科病棟の摂食嚥下リハビリで力を入れているのは、入院中のリハビリだけで終わらず、入院前から退院後まで「食べる」をつないで支援することです。

同じ法人の陵南診療所摂食リハビリステーションでは、外来・訪問診療を通して、患者さんの生活の場で摂食嚥下に関する診療やリハビリを行っています。歯科医師、PT、STが関わり、VE（嚥下内視鏡検査）による評価も行っています。平川病院と陵南診療所摂食リハビリステーションのSTを私が兼任しているため、外来・訪問での様子やこれまでの経過を入院中の支援につなげ、退院後は再び外来・訪問で継続して関わるができます。

実際に、訪問診療で関わっていた患者さんから相談を受け、胃ろう造設と摂食嚥下リハビリを目的に内科に入院された方がいました。入院中は平川病院摂食嚥下チームが介入し、必要に応じてVEによる評価を行いながら、食事形態や姿勢などを調整しました。胃ろうからの栄養、「お楽しみ」としての経口摂取を安定させ、退院後も在宅で食べることを続けられるよう支援しました。体調や生活環境の変化に応じて食事形態や姿勢を調整し、必要時には再入院して治療やリハビリにつなげることもできます。

「食べる」ことは、栄養を摂るだけでなく、楽しみやその人らしい生活にもつながっています。人生の最終段階にある患者さんに対しても、「最後まで食べたい」という思いを尊

重し、安全面に配慮しながら、できる限り経口摂取を続けられるよう支援しています。ご自宅で最期の時間を過ごすことを希望された方に、退院後、訪問で関わる機会もありました。

STは現在私一人ですが、歯科医師、歯科衛生士を中心に、医師、看護師、管理栄養士、PT・OTなど、多くのスタッフがそれぞれの専門性を生かして協力してくださっています。その支えが、患者さんの改善や「食べたい」という希望の実現につながっています。これからも多職種、そして陵南診療所摂食リハビリステーションとの連携を大切に、「食べたい」という思いを、その先の生活までつないでいきたいと思います。



訪問リハの様子

特集

内科

当院の内科訪問診療のご案内

地域生活支援科 看護師 築田 康美

当院では、患者様が住み慣れた地域やご自宅で、自分らしい生活を末永く続けられるよう、内科訪問診療を行っています。2018年より、内科の土井医師が内科病棟看護師と訪問していましたが、現在は地域生活支援科看護師と共に訪問しこれまで以上に地域に根ざした細やかな医療をお届けしています。

訪問地域は美山、恩方、元八王子、長房など当院周辺地域のため、ご高齢になり、交通機関を利用した通院が難しい方などが利用されています。

私たちチームは、医師・看護師・事務・運転手で構成され、精神保健福祉士・作業療法士のバックアップもあります。当日は、事務スタッフが事前に訪問時間などをご連絡し、医師・看護師・運転手とご自宅に伺い、診察にあたっています。看護師が体温、血圧測定を行い、医師が診察し、お薬の処方を行います。その他、お怪我をした時の処置や採血検査、インフルエンザワクチンなども、ご自宅で実施し、必要がある場合は外来と連携し当院での検査も受けられる体制を整えています。

私たちは、患者様お一人おひとりの意思や個性を尊重する『パーソン・センタード・ケア』を実践するとともに、ご家族を支える『家族支援』にも力を入れています。

地域の訪問看護、訪問リハビリ、かかりつけ薬局、地域包括支援センター、ケアマネジャー、ヘルパー事業所などの方々と連携し、患者様とご家族の不安に寄り添い、安心して在宅で過ごせるようサポートしています。

地域の皆様にとって困った時に相談できる、「頼りになるお隣さん」のような存在でありたい、そして、ご自宅での暮らしを支える「一番身近な応援団」でありたいと願っています。

これからも、皆様が笑顔あふれる在宅生活が過ごせるように真心をこめて、ご自宅に伺います。ご相談がありましたら、地域生活支援科へご連絡下さい。



みやまマルシェ

2026年11月7日(土)開催!!

平川病院に『ファッションセンターしまむら』がやってきます!

作業療法科 科長 土屋 貴裕

令和8年10月30日(金)に、患者様の暮らしを支える取り組みの一環として、ファッションセンターしまむら様による出張販売を企画しています。

これまで当院では、入院患者様を主な対象として、衣類購入の機会を提供してきました。衣類は毎日の生活に欠かせないものであると同時に、“自分で選ぶ”、“お気に入りを見つける”といった楽しみにつながるものでもあります。現在も、衣類を購入できる機会へのニーズは高く、今回、より多くの方に必要な衣類を選び、購入していただける機会を設けるため、ファッションセンターしまむら様に出張販売を依頼させていただきました。

当日は、衣類や日用品などを実際に手に取りながら、ご自分に合った商品を選び、お買い物を楽しんでいただけます。普段、外出や買い物の機会が限られている方にとっても、身近な場所で商品を見て、選び、購入することができる機会となります。

患者様に限らず、ご家族、地域の皆さま、職員など、どなたでもご利用いただけます。多くの皆さまにお立ち寄りいただき、お買い物を通じた楽しいひとときを過ごしていただければと思います。



編集後記

個人的に、年々日の経つのが早く感じられ、少しずつ秋が迫る9月。今月が終わるともう2026年度の半分が経過することになります。GW、お盆休みに続き、9月にはシルバーウィークが控えており、観光地やレジャー施設では混雑が予想されます。一方で大型連休に台風上陸予報も出ており、心配されますが、皆さんはどう過ごされますか?

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

